

9歳の子が壮絶なりバウンドに耐えた  
様子を綴った手記（途中経過）。

「がんばった！！ 裕太！！

2015年 一生の歴史に残る年」

山下裕太（お母様記述） 9歳

2015年12月11日

息子が生まれてから8歳になるまでに湿疹が出ていた箇所は、頭の皮膚、目の周り、首、耳、腕、手、指、背中、おちんちん、足でした。皮膚科でステロイドをもらい、週に2、3回、8年間に渡って塗り続けていましたが、8歳になった頃からステロイドを塗っても効かなくなりました。目に見えて症状が悪化していき、四六時中痒みで苦しんでいる息子を見て、涙、涙の心境になりました。そこで、京都で漢方を出す病院としては評判の良いT病院を受診することにしました。T病院ではステロイドを塗らないようにと指導されました。「ステロイドの替わりになる塗り薬はなんですか？」と聞くと、「保湿が一番なのでヒルドイド、ワセリンがいいでしょう」との答えでした。そして、その塗り薬に加えて顆粒の漢方薬が出されました。

T病院の医師は、診察時には湿疹だらけの息子の体を診ても「そんなにひどくないですね」と言われました。この一言ですごくイヤな気持ちになりました。そのイヤな気持ちがスッキリしないまま、我慢しながらT病院の治療を受けることとなりました。家に帰る道中では、「ステロイドの塗り薬やめて、さあどんな漢方薬なんだろう！！」「裕太をどう変えてくれるんだろう！」と、息子が治るという期待でいっぱいでした。しかし、当然のことながら、ステロイドの塗り薬やめたために、症状は悪化しました。顆粒の漢方も何の変化もありませんでした。冬なのに「服もいやや」と全裸でのたうちまわり、痒さのためにご飯も食べられず、宿題もできず、授業も聞けなくなりました。ぐったりしてやっとの思いでうたた寝しても、30分もすればまた気が狂いそうな痒みで起きる、そんな有様でした。

たまらずT病院へ相談しに行くと、脈を指先で押さえたり、目をアカンペーのようにしたりされました。また、食欲や排便についてたずねられました。そして、『早くしなさい！』と怒ったり、ストレスを与えたりしないようにして

あげてください。嫌いなものは食べなくていいです。そんなにひどくないですよ、お母さんがもっと気を強くしっかりしてください。」と指導されました。2週間ごとに顆粒の薬を変えられるので「どういう薬か？」と聞くと「また、もう！」と怒られ、T病院の帰り道はいつも落ち込んでいました。

「こんなに湿疹が出ているのに、なんでひどくないの？」「なんか処置して！」「何か助けて！」「T病院を変えたい！！」「ここまで頑張ったし皮膚科には戻りたくない！！」と松本医院を知るまでは、このレベルで長い半年を過ごしました。

「可哀想な裕太、全部親のせいだ・・・」、裕太の裸の全身をさすりながら、途方にくれている時、二人の知人のことを思い出しました。二人には以前「高槻に漢方のすごい病院がある」ということを聞いたことがあったのです。すぐに連絡をとって、「その病院は松本医院だ」と教えてもらおうと、ネットで松本医院のホームページを見てみました。そこには、これまでアトピーと戦い抜いた多数の患者さんの手記があり、私は無我夢中で読み続けました。(全部は読めませんでした・・・)そして「ここは、何かが今までの病院と違う」と確信し、すぐに松本医院へ行きました。

待合室にはたくさんの方が待っておられ、裕太よりも酷そうな人が何人もおられました。名前を呼ばれて診察室入ると先生がおられ、最初に「何でウチに来たんや？」と聞かれたので「知人から聞いて、ネットで調べて来ました」と言うと、さらに「ホームページを全部読んだか？」聞かれました。難しい箇所は読んでいなかったのので「少し読みました」と答えると、「アホ！全部読んでこい！子供がこんなになったのは親がアホやからや！」と怒られました。そして「これはヘルペスが悪さをしているんや、掻きたければ我慢せず掻かしたらええんや」と今まで聞いたことがないことばかり言われ、親子共々頭の中がリセットされたような気持ちになりました。漢方薬、ヘルペス錠剤、漢方風呂の説明を受け、「先生にすべて任そう」と決心し帰宅しました。ここから壮絶な脱ステロイドのリバウンドが始まりました。

4月20日頃の夜中、いつもとは違う身体を掻きむしる音で目が覚めると、座った状態でうめく子供の姿がありました。首の周りを見てみると、皮膚がペロっとめくれていました。息子は1時間ごとに目を覚まし、掻きむしっていました。朝、首が曲げられなくなり、風が当たっただけで激痛が走るらしく、学校へも行けなくなりました。親としては、いつかリバウンドが終わることを信じて、一日交代で寝ては起きて、子供の看病につくしました。

一日で瘡蓋ができ、それをまた掻きむしるという状態が2週間ほど続き、首が人間らしい色に戻るのに20日ほどかかりました。5月の中旬頃から漢方薬が変わり、アトピー本来の治療(免疫を上げる治療)が始まりました。新しい漢方薬を飲み始めると、すぐ全身が強烈な痒みに襲われ、弱っている皮膚が耐えられずボロボロになりました。服は着られず24時間全裸の状態でした。神経がむき出しになっている体では漢方風呂に入ることも辛いらしく、3分ぐら

いしか入れませんでした。※それも泣き叫びながら入っていました。

塗り薬も塗れず、どうしたらいいかわからず、気が付けば先生に電話をしていました。(高槻まで子供を連れていくこともできない状態でした)。先生に相談すると「薬は塗らなあかんに決まっているやろ、風呂に入らなあかんやろ！親がしっかりせんか！」とまたまた怒られました。この時言われたある言葉が強烈に私たちの心を引き締めてくれました。それは「リバウンドに耐えるも地獄！今やめてステロイドに戻るのも地獄や！」という言葉でした。これをすべて聞いていた(電話をスピーカーホンにしていました)裕太が「僕、頑張るわ」と言ってくれ、神経がむき出しの体で震えながら、大声を出しながら風呂に入り、薬を自らの指で塗ってくれました・・・。

しかしリバウンドは容赦しませんでした。膝の裏の状態が酷く、脚が曲げられないため歩くこともできなくなり、移動すら困難になりました。トイレは抱っこしていき、本人はずっと座椅子生活でした。夜、寝る時も座ったままでした。隣で看病している私たちに「いいなあ、脚が伸ばせて・・・いいなあ、布団きれて・・・」とぼやかれ、親としては切ない日々でした。

リバウンド中、太ももから足首までの掻きむしった傷跡全部から「汁」が出て、ポタポタと垂れてくるようになりました。2日間かけて、やっとの思いで瘡蓋ができて、少し動くと深いヒビができて出血してしまいました。これがまた痛いのだそうです。寝ている10分の中で無意識に掻き、またポタポタからスタートの繰り返しになっていました。布団には「かつお節」みたいなもの(これが落屑)が毎日大量に落ちていましたが、「これは皮膚が頑張っている証拠だ」と言い聞かせました。

9月に入る頃になると、膝の裏や首の辺りにつるつるの皮膚ができ、服を着られるようになりました。トイレも自分で行けるようになり、裕太の顔にも1か月間見られなかった笑顔が出るようになりました。学校にも(送り迎えはありますが)行けるようになりました。

現在(12月)も漢方風呂、赤・黄クリーム、煎じ薬を続けています。まだ湿疹はいっぱいです。夜も調子の悪い時は4、5回起きています。それなのに喜びと感謝の毎日です。完治を信じて、松本先生を信じて、もう少しお世話になります。

皆さんへ。頭の中を真っ白にして、松本先生の言葉だけを取り込んで、松本先生を信じて突き進んでください。きっといい結果が待っています！